

下記情報は当地報道を抄訳したものです。詳しくは原文をご参照下さい。

【キューバ医療情報】

9月10日 【Granma】

キューバは3年連続で先天性欠損による乳児死亡率を最低に維持

先天性欠損症による乳児死亡率を国家の歴史上最も低い、1000人当たり、0.8に3年連続で維持していることは、国立医学遺伝学センターの誇りにしている結果の一つである（2003年設立時1.7であった）。

9月17日 【Granma】

キューバはリンパ腫の診断と治療の進歩をしている

キューバのリンパ腫の診断と治療は近年、大幅な進歩を遂げており生存率が向上している。血液免疫研究所（IHI）は、この結果は治療法として、新薬の導入、自家移植と新規生体物質を使用した臨床試験の実現によると説明している。

毎年約1100人を超えるリンパ腫の患者が診断されている。女性よりも男性が多く、年間死亡率は約3%である。

9月18日 【Cubadebate】

蚊（ネッタイシマカ）：繁殖とベクター制御のため重要な時期

保健省によると、9月の終わりから11月初めの時期は、ネッタイシマカが繁殖する最大のピークで、最も危険な時期である。全国のすべての地域で程度の差はあれ、存在が報告されている。

2016年以降、ベクター制御のため年2回、蚊の多い場所に優先順位をつけ、集中的な対策がとられている。

キューバは気候（高温、高湿度）と地理的位置は修正できない要因がある。また人口密度、ゴミ投棄など、これらは蚊の繁殖に関係し、病気が伝染する可能性が増強する。

ネッタイシマカはきれいな水だけではなく、汚れた水の中、瓶のキャップ、貝殻の中、スプーンの中など、湿気があるところならどこでも繁殖することができる。またタンク、貯水槽、貯水池なども、蚊は産卵のために利用する。

ネッタイシマカによる、デング熱、ジカ熱（2015年以降、主にブラジル）、チクングニア熱が近年拡大しており、黄熱が2015年アンゴラでアウトブレイクし、後にブラジルに広がった。

キューバのデング熱は、最も顕在化した感染症である。過去3年間、国内にはチクングニア熱の症例はなく、ジカ熱は、2018年前半終わり以降、症例は報告されていない。黄熱に関しては、最後の症例は1909年に記録された。これらの感染症はすべて同じベクターである、ネッタイシマカによって感染する。

デング熱の場合、デングウイルスには4つの血清型（1，2，3，4）がある。2018年から201

9年にかけて、キューバでは血清型1の症例も報告されているが、血清型2が優勢である。同じ患者が異なる血清型に感染すると、重症化する可能性がある。今年キューバで最も多く流行している血清型2は、臨床症状がやや強く、病院でのケアが必要となる可能性が高い。

9月22日 【Granma】

キューバはHIVと先天性梅毒の母子感染を絶えず排除している

キューバは2015年以来、HIV感染と梅毒の母子感染の排除を目指している。保健省は出生前ケア、施設内出産、血清学的検査等、キューバ政府の介入で、HIVの母子感染率は1.85%を達成し、目標の2%を下回ることになったと説明している。